

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
栃木県(代表) 大田原市	(栃木県) 90000 (大田原市) 92100	1	平成20年度～ 平成23年度	平成20年度
活性化計画の区域				
乙連沢2地区活性化計画は、栃木県大田原市乙連沢地区の受益5.2haを計画区域とし、当該地区の農道L=401mを整備することにより野菜等集出荷時における荷傷み防止し等、農作業の効率化と農業に対する意欲の向上が図られる。 これにより、安定した農業経営の持続、展開を促進することを目標として策定したものである。				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率(%) B/A	備考
定住等の促進に資する農業用排水施設等の機能の確保	5.2ha	5.2ha	100%	

(コメント)

事業活用活性化計画の目標値に対して100%達成された。
また、活性化計画の目標である、「当地域の定住化を促進、農家戸数の維持」について、平成23年3月末の2010農林業センサスより確認したところ、農家戸数67戸と3戸減少(計画時70戸[2005農林業センサス])となったものの、当該農道を整備したことにより農作業の効率化が図られ、今後地元住民の定住促進に結びつくものと思われる。

2 目標達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
土地改良施設保全	農道工 L=401m W=5.0m			大田原市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
大田原市	平成20年度	平成20年度	平成21年2月27日	
事業の効果				
農道を整備したことにより、野菜等の集出荷時の荷傷み防止及び搬出時間の短縮等の営農条件が改善されたことで農作業の効率化が図られた。				

3 総合評価

(コメント)

[大田原市]

地区内の道路は、ほとんどの路線が砂利道であり、荷傷み等生産物の輸送に著しく支障を来していたが、当該路線が整備されたことにより、野菜等の荷傷み防止や農作業の省力化等の営農条件が改善され、今後は安定した農業経営及び当地域の定住化の促進が期待される。

[栃木県]

本事業により農道が整備されたことで、高品質の農産物出荷量の増加及び輸送体制が確立され、農業経営の向上が図られた。

4 第三者の意見

(コメント)

大田原市農業委員会 会長 五江淵 皓

農道整備により、農作業の効率化が図られ安定した農業経営及び地域の振興に繋がったと思われることから評価内容は妥当であると考えられる。